



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

1

January
2007
vol.405

特集
1

医療法人さわらび会45周年

特集
2

さわらび会の障害者福祉・高齢者福祉について
～みんなの力でみんなの幸せを実践する為に～



明けまして おめでとうございませす

皆様おそろいでよきお年をお迎えのことと存じ上げ、
心よりお喜び申し上げます。

さわらび会は時代の变化をよく見きわめながら、
その中で私達が担うべき役割を果すように努めて、
はや45年が過ぎようとしております。

これからもたえず変化する社会の中で、
皆様の幸せと健康を守る努力を
重ねてまいる所存でございます。

今後ともよろしくご支援とご指導の程お願い申し上げます。

二〇〇七年 元旦

さわらび会理事長

山本 孝之





医療法人さわらび会は今年45周年を迎えます。

明日への希望を支援します

老人保健施設ジュゲム

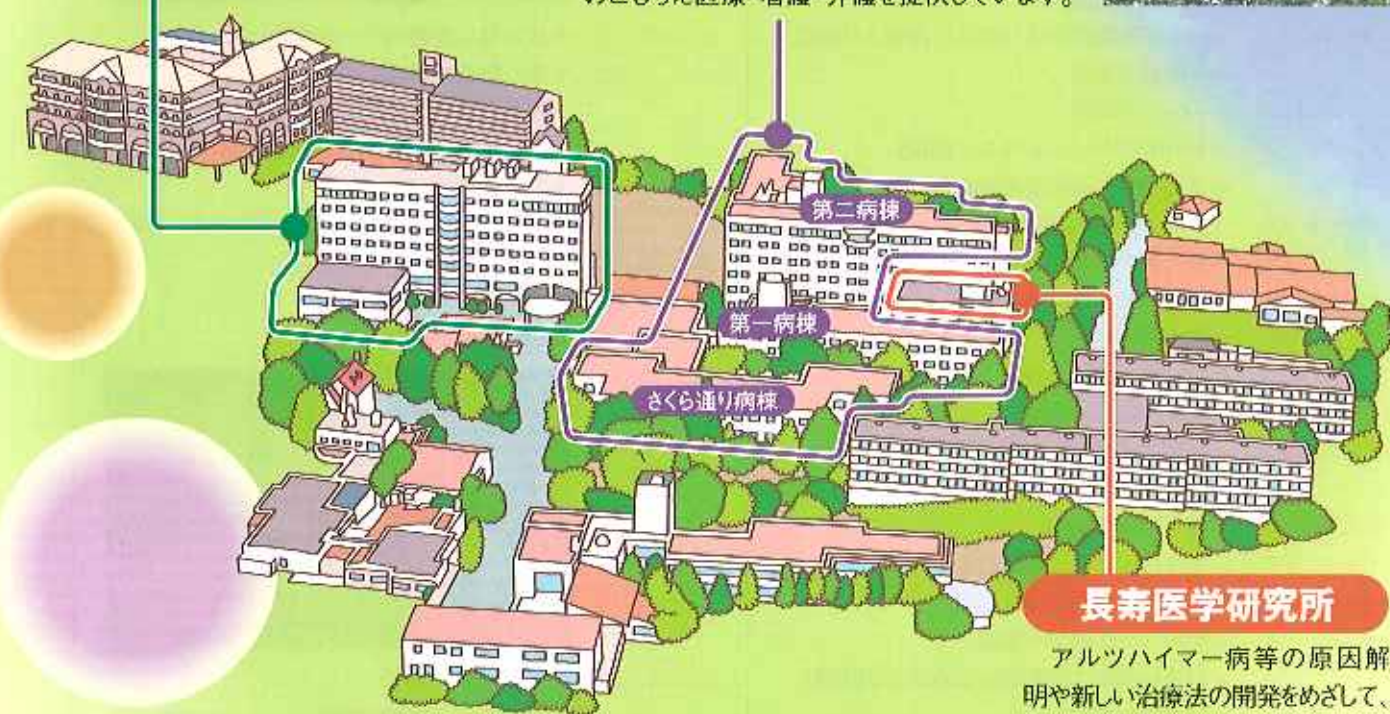
緑豊かな自然環境に囲まれ四季折々の風を感じながら生活、療養できる心温まるケアを提供しています。



福祉村病院

福祉村はみんなの幸せを守る、医療と福祉の安全保障基地ですが、その中で福祉村病院は、利用者の皆様の「自立促進」を第一の目標とし、高齢者や心身障害者の治療とリハビリを行っています。特に認知症の治療とリハビリは、全国で最初に取り組んで話題になりました。

医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアワーカー、医療ソーシャルワーカー等の多くの職種のチームワークによって、心のこもった医療・看護・介護を提供しています。



長寿医学研究所

アルツハイマー病等の原因解明や新しい治療法の開発をめざして、遺伝子組換え技術等も用いて、大学医学部にも引けを取らない最先端の研究を行っています。

海外にも研究成果を発信し、外国の研究者との共同研究も活発に行っています。



福祉村病院基本理念・憲章

基本理念

私たちは患者様及び家族の皆様にご喜ばれ信頼される病院をつくります

病院憲章

- 一、私たちは、心を込めて患者さんの医療と看護に尽くします。
 - 一、私たちは、力を合わせて入院患者さんの社会復帰のために努めます。
 - 一、私たちは、知恵を集めてお年寄りの学習をすすめるための様々なお手伝いをします。
 - 一、私たちは、老人福祉推進のために協力していきます。
 - 一、私たちは、明るく楽しい生きがいあふれる福祉村病院づくりに励みます。
- 私たちは、心をつなげて、以上のことを守っていきます。



地域とともに歩んできた 医療法人さわらび会45周年のあゆみ

1962年

8月15日

●山本病院開院



1965年 9月

●増築、外科を新設(32床)

1967年 6月

●職員寮新設

11月

●金田診療所開設

1971年 2月

●山本病院新館増築(108床)、産婦人科新設

●介護婦会発足

11月

●リハビリ部設立

1972年10月

●デイホスピタル、ショートステイ開始

●退院患者の巡回指導開始

1973年 5月

●早蕨(山本病院院内報第1号)発行

9月

●老人大学開講

1974年 2月

●老後保障推進協議会発足

6月

●朝の言葉開始

8月

●山本病院家族会発足

1976年 5月

●女河浦診療所開設

1980年 1月

●ボケ110番開始

2月

●医療法人許可

1982年 3月

●福祉村病院開院

1984年 8月

●福祉村病院第二病棟完成

1985年 5月

●老人衣料研究会発足

1986年 2月

●クリーニングセンター開設

7月

●福祉村病院に歯科開設(2002年12月閉鎖)

8月

●瑞恵寺完成

11月

●福祉村病院院内保育開始

1987年 9月

●レジデンスなかま完成

1988年 1月

●福祉村公園完成

11月

●福祉村簡易郵便局開設

1990年 9月

●福祉村老人保健施設ジューゲム開設

1991年 4月

●福祉村病院免疫病理研究室開設

1992年 8月

●さわらび不老会発足(後のりんどうの会)

1993年 1月

●福祉村在宅介護支援センター開設

4月

●日本老年医学会認定施設となる

5月

●福祉村病院長寿医学研究所開設

1994年 4月

●第1回福祉村シンポジウム開催

6月

●福祉村Brain Bank設立

1995年12月

5月

●法人名、病院名変更認可

●山本病院老人病棟基準看護、老人病院入院医療管理に移行

●長寿医学研究所動物舎造設

1997年 8月

●長寿医学研究所竣工

1998年11月

●インド福祉村病院開院



2000年 1月

●福祉川具開発:アンクル開始

4月

●第二病棟増築竣工式

●福祉村指定居宅介護支援事業所開設

●第二病棟2~5階が介護療養型医療施設に認定

2002年 3月

●さくら通り病棟竣工式

4月

●山本病院が福祉村病院さくら通り病棟へ移転

2003年 4月

●福祉110番開始

●福祉:コンビニ開設

●福祉村保育園開設



2004年 5月

●ブックスタート開始



10月

●長寿医学研究所が科学研究費補助金取扱規程の指定機関となる

2005年 5月

●福祉村サービスセンター増築、改装

11月

●第二病棟ハーバード浴室完成

2006年 4月

●さわらび大学開講

森外科クリニック院長 森 澄

南天

雪が降る季節になると南天の実の赤さが一段と鮮やかになります。赤い実が点々とついた様子はクリスマスツリーの赤いキャンドルライトのようにさえ見えます。

南天は六月に白い花が咲きます。実は始めは緑色で次第に黄色から赤く変わり、かたまつて穂のようになります。最後は黒くなって終わります。南天は中国原産の自生種がわが国に入つて野性化したものです。ヨーロッパにも植物学者の手を経て広がっています。

われるように、験のいい縁起木として祭りや儀式にも使われてきました。例えば正月の床の間に水仙や松と一緒に生けたり、婚礼や成長を祈願する際にはよく使われます。

今では殆ど行われていないようですが、子供が生まれて百日日に始めて食事をとる「お食始くわいじ」という儀式がありました。この時の箸は南天を使っています。

また結婚式に出る赤飯の折詰めに南天の葉が入れたり、包み紙に南天の葉が印刷されたものを使います。

この南天の葉は「三葉樹」と言われ、二枚から五枚の羽状複葉ですが、葉には薬効はありませんが実は咳止めの薬として使われてきました。その成分はアルカロイドのドメスチンです。成分や効果のはっきり解らなかった江戸時代に疫病流行した時などは南天の価格が高騰することもあったそうです。

南天は実だけでなく葉も美しい紅葉を見せてくれます。

自然を大切にすれば南天と同じように色々な植物も私達に沢山の癒しを与えてくれるものです。

実南天 二段に垂れて 真赤かな

風生



看護師さんシリーズ⑤

かつては医師と看護師が中心であった医療の現場は今や薬や栄養・検査・リハビリが専門分化し、更に救急救命士や介護福祉士、ソーシャルワーカー等も医療チームに加わるようになってきました。

しかしこれ程医療が高度化し、情報も多くなり、多くの人達のチーム医療が行われるようになっていくにも係わらず、患者さんの医療に対する不安や恐れや戸惑いは少なくなっていないように思われます。

入院と共に今までの自分が失われ

て依存的になったり、目標を見失ったり、自分の意志が戸惑ってしまい勝ちです。病気が重症であればある程、不安や死の恐怖のため、自分をコントロールできなくなるのです。

このような時に、患者さんの不安や恐れ、孤独感を受けとめ、全身全霊で患者さんを支援することは、看護師以外には出来ません。

重く口を閉ざす人や、情緒が安定しない人、訴えの多い人など、患者さんは必死でSOSを発しておられるのです。

決して面倒がってはいりません。しかめ面などでの外です。看護師の全人的な力で混乱をときほぐし、不安の原因をとり、痛みを和らげるためのあらゆる努力をお願いします。そこには必ず患者さんとの信頼関係が生まれます。そのためには看護師の人的成長がさらに求められるのです。

最高の医療を提供するための活躍を期待しています。

さわらび会の 障害者福祉・高齢者福祉について



～みんなの力でみんなの幸せを実現する為に～

2006年は障害者の分野では障害者自立支援法が施行され、また高齢者の分野においても介護予防の考え方が積極的に取り入れられるなど、従来の福祉は大きなターニングポイントを迎えました。このような情勢の中でのさわらび会の取り組みを、2007年に向けた視点に立ってまとめてみました。

障害者の分野

障害者自立支援法は障害者の自立を支援する法律として制定されましたが、自己負担が発生し、却って自立を妨げられている障害者が出て来ているなどの色々な問題もあります。また障害児を抱える親御さんにとつて、「子供が障害を持ってはいるものの、これから就職し、自立した生活が続ける事ができる賃金を得る事ができるだろうか？」という点が切実な悩みとなっています。

さわらび会には知的障害者の授産所として明日香があり、またクリーニング工場もあり、障害者の方の就労の支援を積極的に行っています。また、その前の段階である就職や進路を相談・支援する活動も行っています。

豊橋養護学校進路懇談会

12月18日（月）豊橋養護学校で今年度卒業を迎える生徒、そのご家族

を対象として進路懇談会が開催されました。この懇談会は、豊橋養護学校と生徒の関係が卒業後は希薄になってしまうため、卒業者が孤立しないよう、卒業前に福祉関係者とのつながりを持って頂くというのを目的としています。当日は東三河各所から多くの相談機関の職員が参加協力しました。さわらび会からは、たまも荘障害者生活支援センター、あかね荘障害者生活支援センター、田原市障害者生活支援センターからそれぞれ職員を派遣し、卒業生、家族と面談をさせて頂きました。

卒業後の就労先の相談をはじめ、障害者自立支援法が施行されたことで、利用者側としては例年以上にとまどうことが多いようで、認定調査、福祉サービスの種類、利用方法など自立支援法に関連した相談が多くありました。進路懇談会が1日ということでも一人ひとりの相談時間が限られ、多くの話は出来ませんでした。相談機関側としてもこのように早い

段階から関係を持たせて頂くことで利用者の方のニーズを把握でき、何か相談事ができた時など、すぐに対応できるので大変に良い機会だと考えております。

学校を卒業し、社会生活へと旅立つ時期にはさまざまなトラブルが予想されます。そのような重要な時期を支え、これからの長い社会生活のスタートの場面に関わりを持たせて頂くことは相談機関として一番喜ばしいことです。このような機会にはいつでも呼んで頂きたいと思っています。

これからは私たちは障害をもつ方のために就労の場や生活の場を提供すること、そして相談機関として、さわらび会全体で地域の障害者を支えてゆきたいと考えられています。



障害者の自立を支援するためにはその方がどのような生活を希望しているか、またどのようなサービスを提供する事で自立した生活を送る事が出来るようになるかを考えるシステムが必要です。さわらび会では障害者の方が自立した生活を送る為の相談にも積極的に関わっています。

相談支援事業所

情報交換会開催

障害者自立支援法が本格施行された昨年10月より、障害者の福祉サービスのの中に在宅者向けのケアプラン（障害者の場合はサービス利用計画といいますが正式に導入されませんでした。（※）介護保険の場合と違いすべての障害者が対象という訳では無く、「単身で生活している者（家族が同居していても適切な支援が得られない者を含む）であって、自ら福祉サービスの利用に関する調整を行うことが困難であり、計画的な支援を必要とする者」という制限が設けられています。

介護保険ではすでに導入された制度ですが、障害者の分野では全く初めてのサービスで、申請の方法、契約書の様式、アセスメント表の様式など、全く整備がなされないまま見切り発車の形でサービスがスタートしてしまいました。利用者の中にはサービス利用計画の存在すら知らない人が大勢いると思います。

あかね荘障害者生活支援センターでは指定相談支援事業所としてサービス利用計画の業務を担って行くのが責務であり、平成14年度の障害者ケアマネジメント試行事業の頃よりこの地域で先駆的にこの事業に関わらせて頂いてきた当センターとしては、このサービスをぜひ充実したものにしたいと、11月24日に「相談支援事業所情報交換会」を開催させて頂きました。

当日は市内5箇所の指定相談支援事業所から13人の支援者が集まり、また豊橋市障害福祉課からも担当者に参加をお願いし、サービス利用計

画の一連の流れを全事業所で確認しました。また、各事業所が持つ情報を交換することによりこの事業の進め方がやっと明確になってきました。地域の中で障害を持った方達が安心して生活を継続できるシステムとして重要な位置を占めるサービス利用計画です。

法律が変わり利用者が戸惑いを見せるなか、このような事業者間で情報交換を行うことはサービスの充実、ひいては利用者の福祉の向上につながります。事業者が協力するケアプラン・ネットワークの構築をめざし、これからもさわらび会では努力を続けてゆきます。



▲情報交換会の様子

さわらび会には様々な人材がいます。障害を克服し現在は珠藻荘で副施設長をしている田中力さんもその一人です。彼はピア・カウンセラーとして自分の経験を障害者の方へ伝える仕事をしています。彼を見習い、新たにピア・カウンセラーを目指している二人にスポットを当ててみます。

自立に向け、ピア・カウンセラーを目指してがんばっています！ 荒川安章さん・稲垣ひとみさんの挑戦

身体障害者福祉施設 珠藻荘

「障害を持つ当事者こそが専門家である」という考えのもと、「助けられることと、助けられることは対等である」という理念で行われる、ピア・カウンセリング。それを行う相談員はピア・カウンセラーと呼ばれます。現在、珠藻荘では田中副施設長がピア・カウンセラーとして活動していますが、施設利用者の荒川安章さんと稲垣ひとみさんが、新たにピア・カウンセラーを目指して頑張ってい

ます。12月1日から3日間、岡崎市勤労福祉会館で行われた「ピア・カウンセリング集中講座」に泊まりこみで参加し、文字通り朝から晩まで受講されました。

ピア・カウンセラーは、まず自身が自立生活の実践者であることが必要です。お一人は今回の集中講座の受講に対し、豊橋〜岡崎の交通手段の予約、3日間に及ぶ受講中の介護者の確保など、計画から連絡調整に至るまでのほぼ全てを自分達で行いました。

今回の集中講座から、それぞれ「意図的な感情の出し方や相談者との接し方の大切さ」「相談者の話は絶対に否定しない」といった、相談員としての基礎知識をしっかりと学んでこられたようです。

相談をする側から、相談をされる側へ。障害を持っているからこそ分かる障害者の悩み。ピア・カウンセリングの勉強を通して、自身の自立への一歩を歩み始めました。



▲様々な障害を乗り越え、みんな自立に向けて頑張っています。

高齢者の分野

高齢者の分野では昨年4月より介護保険法の改正の中で、在宅重視、また介護予防の考え方も重視されるようになりました。特に介護予防は介護状態になるのを防ぐという、これまでの介護状態になった人をどのように支援していくのかという考え方と比較すると積極的な考え方です。若菜荘では介護予防の考え方を積極的に取り入れた活動を行っています。

バリアを克服する！ 若菜荘の取り組み

一般に、高齢者は加齢とともに様々な能力及び機能低下を来します。そのような状態の方でも、健常者と同じような生活を普通にできるような、様々な障壁を取り除くという意味で皆さんよくご存じの「バリアフリー」という言葉が浸透し、高齢者施設などでは至る所の段差を解消したり、車椅子でも普通の生活ができるような工夫を行っています。

若菜荘でも、昭和56年の開設以来今日に至るまでに、玄関ホールや洗濯室などの段差の解消をはじめバリアフリー化対策を随時行ってきました。しかしながら、開設当初より鉄筋コンクリート造り3階建て2棟（エレベーターなし）という生活環境そのものは不変であり、このことはバリアフリー化の流れからは他のケアハウスなどと比べて不利な点とされてきました。

バリアフリーは一般には良いこと

であり、現在でも各地で推奨されていることなのですが、視点を考えてみると必ずしも良いことばかりではありません。むしろ健脚保持の視点からは反することなのです。

実際、要介護度1程度の方が若菜荘3階へ入所し、日々の生活の中で階段を利用する生活を継続した結果、この利用者の方にとっては過度な運動（筋力増強訓練）となり、介護保険制度上の更新認定の結果「非該当」（自立）との判定をいただき、ご本人及び保証人ともに大変に満足されております。

◎つぎ足歩行と階段昇降で筋力アップ



今では一人でも大丈夫です

健脚度を保持する訓練としては、階段昇降の他に、つき足歩行などが有効とされております。

今後、年度末に向け「重心動揺計」及び「健脚度」の測定を実施してゆきますので、その結果も今後を活用していこうと思っております。

みんなの力で みんなの幸せを！

役割を持って生きがいのある生活を送る為に

「家族会・自治会の活動について」

福祉村の多くの施設には、利用者の方の自治会があります。利用者本人が役割を持つことは、人の役に立つ喜びを感じられることにつながります。また、利用者のご家族の皆様には、各施設の行事のお手伝いや様々な支援等を通し、利用者の生活をより豊かなものにしていただいております。

ここでは、さわらび会の家族会・自治会活動をご紹介します。

第二さわらび荘家族会では

第二さわらび荘では家族会が活発に活動を行っています。月に2回の家族会デーを設け、洗濯物たみや清掃活動などを行ってくださっています。そうした活動とは別ですが、利用者の方の役に立つものをとのご趣旨でご厚情を頂きましたので、検討の結果、褥瘡防止のためのエアマットを4台購入させていただきました。利用者の介護面での重度化がすすむ中で、エ

アマットは大変貴重な道具です。大切に使用させていただきます。



▲家族会の支援で購入させていただいたエアマット

若葉荘の自治会では

若葉荘自治会では、会員相互の親睦及び扶助を主目的とする傍らで、地域福祉及び地域貢献という「人の

ために役立つことの実践」を3年前から掲げ、近隣の神社清掃と福祉村公園の清掃活動を定期的に行っております。現在は、地域の清掃活動及び福祉村公園の清掃活動は主に男性利用者が、朝食後の食堂清掃を女性利用者が継続して行っております。人・人ができることは微力かもしれませんが、全員で目的意識を持ち前向きに取り組むことで大きな力となっているようです。

自治会の目的には、行事を含めた日常生活全般について施設の運営に全面的に協力することが含まれており、今年度は、年末恒例の福引き大会について、品物の購入からくじ引き作り、当日の運営などを自治会の役員が中心となり行いました。今までは職員が品物を購入していましたが、今年は、利用者自身の視点で品物を購入してきましたので、皆さんの景品が当たっても納得されておりました。

今後も、今自分達ができることは

何かを模索しつつ、奉仕の心を掲げて自治会活動を継続してゆこうと思っております。



▲自治会役員のみなさんがサンタに扮して景品の福引きを担当

珠藻荘の自治会では

珠藻荘の自治会では、役員を選挙で選出し、その役員を中心に毎月の自治会や役員会の運営、その他各委員会への参加をし、施設の運営に広く利用者の声を反映しています。「自分たちの生活は自分たちで決める」という考えのもと、様々な行事、学生の体験学習の受け入れ、日々の問題解決等、当事者からの視点で職員と連携を取り積極的に活動しています。

山本左近選手 2006シーズンを語る!!

昨シーズンの左近選手は、シーズンの初めはフォーミュラ・ニッポンとスーパーGTでレースをスタートさせ、途中からF1の世界に飛び込んでいったこともあり、とても忙しい1年でした。

イギリスGPからスーパーアグリF1チームのテストドライバーとして、再びF1の世界に飛び込み、ドイツGPからは、遂にレースドライバーとして参戦。最終戦のブラジルGPが終わるまで、左近選手にとっても毎日が新しいことに直面するような挑戦の日々でした。

昨シーズンを振り返って、左近選手はこのようにコメントしています。

●コメント/山本左近(スーパーアグリF1チームホームページより)

●写真/IMAHARA Taro (TIPP)

●提供/サコンプランニング社

F1 DRIVER SAKON YAMAMOTO

レースドライバーとして
臨んだ日本GP

レースドライバーとして初めて臨んだ日本GPは、本当に感動的でした。僕が小さい頃、鈴鹿でF1を見て、それで初めてF1を知って、それに乗りたいたいという夢を抱いて、モータースポーツの世界に足を踏み入れました。今思い返すと、鈴鹿サーキットがなかったら僕のレース人生はなかったと思います。それだけに、その鈴鹿にF1ドライバーとして帰って来られたということがとても嬉しかったです。もちろん、いい結果を出そうというのはありましたが、とにかく大勢のファンの皆さんの前でしっかりと自分の力を出せる走りをしたいなと思っていました。

そんな中、予選では失敗してしまっただけで、たくさんの人を余計がっかりさせることになってしまいました。そういう時でもエンジニアは僕に「お前のセクターはすごかった。琢磨さんより全然速かったし、その時走っ

ていた中で一番速かったんだ」と言ってくれました。そういうふうになってくれるチームメンバーばかりで、僕のミスを攻めた人間は誰もいなくて、お前が頑張ってたまた明日いいレースをすればいいじゃないかって言ってくれたので、本当に心強かったです。

レース中のことはレースに集中していたのであまり覚えていないのですが、今思い返してみると、とにかくグラウンドスタンドの人がすごかったですね。サーキットのスタートからフィニッシュまで、あそこまで人が多かったレースは今までももちろんしたことはなかったし、F1もイギリスから全部回っていますけど、鈴鹿が一番多かったですね。





そして、06シーズン一番印象的だったのは、最終戦のブラジルGPだ。

中国GPで初完走し、日本GPではレースドライバーとして初の凱旋帰国。

そして2戦続けて完走を果たし、調子を上げて来ての最終戦ブラジルGP。

金曜日はあまり走ることができず、また、サンパウロはすごく難しいサーキットで、すごくバンピーだし、セツトアップも全然煮詰められなくて、少し困っていたのですが、琢磨さんやモンタニーのデータをエンジニアと一生懸命見て、土曜日に向けてクルマを仕上げました。すごくうれしかったのは、クルマに対して持っている自分のイメージに近づけるようにいつも努力しているのですが、そう思ってたことが本当にうまくはまってくれて、どんどん調子上げていけたことです。ブラジルGPの時ほど、F1カーを気持ちよく走



らせたことはなかったですね。レースをスタートしてからも、今まではどんどん離されていくことが多かったのですが、前のクルマに引っかけたのでタイムが落ちてしまうほどでした。そんな中でファステストラップ7位

を獲得したということを本当に誇りに思っています。チームの持っているクルマのポテンシャルを考えれば、正直言ってあり得ないことだと思えます。さらに、セクター2がミハエルの次の2番手だったなんて信じられません。優勝したマッサよりも速かったということです。もちろん、僕自身も精一杯頑張りましたが、チームがそこまで速いクルマを仕上げてくれた、仕上げることができるような力が持てたっていうのが僕たちもうれしかったですね。1年を締めくくるレースとしては、チームとしても最高の終わり方だったんじゃないかなと思います。

今年のことについては、この機関誌がみなさまの手元に届くころにははつきりしていることでしょう。

いずれにしても私たちは、夢と勇気をいつも届けてくれる左近選手の活躍を祈り今年も応援したいと思います。

歳末たすけあい 街頭募金

今年もイオングループ様のご協力により、12月7日(木)にジャスコ豊橋南店様、マックスバリュ橋良店様の店頭にて歳末街頭募金を行わせていただきました。

当日は、買い物に来られたお客様などからたくさんの善意をいただきました。今回の募金は豊橋市社会福祉協議会を通じ、全額共同募金会に寄附させていただきました。この場をお借りし感謝申し上げます。

歳末街頭募金 総額 **225,394**円



まごころを ありがとうございます

藤ノ花高校生生徒会・PIAのみなさんが車椅子をプレゼントして下さいました。



地元野依町の老人クラブのみなさんが手作りのしめ縄をプレゼントして下さいました。



- | | | | |
|---|---|--|---|
| <p>28日 25日 24日 22日 21日 20日 19日 18日 16日 14日 13日 11日 7日 6日 5日 4日 3日 2日 1日</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> | <p>■あかね荘
11月16日 本郷中学校生徒体験学習
11月16日 西尾児童とのホラのまじりに参加
11月16日 愛知県・豊橋市協賛
11月16日 東京府児童協賛
11月16日 南陽中学校生徒体験学習
11月16日 東陽中学校生徒体験学習
11月16日 インフルエンザ予防接種
11月16日 語りへの会
11月16日 理容奉仕(浅倉さん)</p> <p>11月16日 若菜荘
11月16日 老人ホーム(東区)サービス(松井) 施設長(名古屋)
11月16日 バスハイク(伊勢)
11月16日 全国警備老人ホーム協議会相模支部
11月16日 委員会(施設長(東京))
11月16日 早稲田福祉協会(施設長(早稲田))
11月16日 豊橋市指導員会(施設長(早稲田))
11月16日 21世紀委員会(施設長(早稲田))
11月16日 誕生会
11月16日 各階別会談
11月16日 豊橋市協議会
11月16日 インドネシア村理事会(施設長(名古屋))
11月16日 老人ホーム(河原町)職員ケノ施設長(名古屋)
11月16日 講(施設長(名古屋))
11月16日 三根小学校訪問
11月16日 喫茶ながよし
11月16日 早稲田福祉協会(施設長(名古屋))
11月16日 全協会
11月16日 全協会東海北陸大会(施設長(山口))
11月16日 坂巻(福井)くじ
11月16日 旭幼稚園クリスマス交流</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> | <p>17日 ケノマネ古門副修(施設長(名古屋))
17日 豊橋市協議会(山本施設長(名古屋))</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> | <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> <p>12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月 3月 2月 1月</p> |
|---|---|--|---|

「お遍路さん」



四国八十八ヶ所霊場めぐり

福祉村病院副院長 伊莉弘之

第七回 娘が千手観音に変身！

お遍路さんの第二日目。かんぼの宿徳島から第一番得度山（とくどぎん）切幡寺（きりはたじ）へ。切幡山の中腹にあり、三百三十三段の急な石の階段を登る。母はゆっくりと踏みしめるように、子供たちは走ってあがる。

この寺には「機（はた）織り娘の伝説」がある。

この地を訪れた弘法大師の手甲や脚半が破れたので、機を織っていた若い娘に布を求めたところ、娘は惜しげもなく



織っている途中の布を切って差し出した。大師がお礼に「何か望みはないか」ときくと、娘は「亡き父母のために観音様を彫ってください。」と頼んだ。大師は、夜で千手観音を刻むと娘を得度させ灌頂を授けた。そうすると娘は即身成仏して千手観音に変身したという。境内は娘の変身した千手観音に守られているかのように美しく穏やかだった。



第十番切幡寺から第十一番金剛山（こんごうさん）藤井寺（ふじいでら）までは車で二十分。仁王門には巨大な草履。境内には五色の藤が咲くという藤棚があった。残念なことに、本日は十二月三十日。四国霊場の多くが真言宗の寺だが、この寺は臨済宗。「そうなんだ」という小三の娘は意味がわかっているのかな。

みんな元気!!
寒い日も足浴器で手足もポカポカ

随言福祉サービスマニエーション しろがね

しろがねには入浴とりハビリを目的に利用される方が大勢いらつしやいます。特に入浴では、清潔を保つだけでなく、気泡浴でのマッサージ効果や温熱効果なども期待されます。それに加え、温パック、湯式やスチーム式足浴器など利用者の方々に大変喜ばれています。温パックは、腰、大腿部などの痛みのある箇所や腹部を温めたい方に局部的に使用し、痛みの緩和等に効果を示しています。湯式足浴器は気泡と振動によって足先を温め、スチーム式足浴器は遠赤外線とスチームによる血行改善効果があるためか、体全体も温まり、手足の動きが楽になったと感想を述べる方もいます。気に入って、自宅用に購入された方もいます。手足の硬直等があつて足浴器を使用できない方には、手足にはめて温めるものもあります。しろがねでは昼食後やリハビリ前に使用するなどとして、活動の合間の時間を有効に利用しています。



さわらび会後援会 寄附ご芳名

- 〔日18・11・15・12・14〕
- 市内東松山町六三 壹拾萬円
 - 佐藤政利氏
 - 市内野依合一丁目七-一 参萬円
 - 藤原謙氏
 - 岡崎市上吉野町八ツ山三二 壹萬円
 - 岡崎市六ツ中野学区福祉委員会
 - 市内牧野町九〇 伍千円
 - 小松ウメ氏
 - 春日井市藤山台五-一-三 伍千円
 - 牛田茂行氏
 - 新城市南畑七四 壹萬円
 - 光田屋様
 - 名古屋市豊兵衛町三丁目一三三 ハヤシリハビリ様 壹萬円
 - 市内大清水町字富士見八〇四-一 壹萬円
 - 藤松谷建設
 - 市内小池町三六-一 伍千円
 - 共和印刷様
 - 市内中岩田三丁目一-一三 壹千円
 - 白井良治氏
 - 豊川市正岡町胡麻山七三三 参萬円
 - マルスホームデザイン 伍千円
 - 市内弥生町西豊和九-九 壹萬円
 - 林昭氏
 - 市内登町三〇 壹萬円
 - 藤中野新松商店
 - 市内瓜郷町前川五〇-一 壹萬円
 - 鈴木弘生氏
 - 市内間屋町一五-五 壹萬円
 - 株式会社スケン
 - 市内東田町一五四 壹萬円
 - 濱竹田商店

インド福祉村協会 寄附ご芳名

- 〔日18・11・11・12・10〕
- 市内高塚町神田六八 伍千円
 - 田京敏明氏
 - 市内東新町三二四 参萬円
 - 藤日医工新和
 - 市内飯村北二丁目六-一六 壹萬円
 - 富流川器械店
 - 市内東臨三丁目一-一七 壹萬円
 - 森田由利子氏
 - 市内白河町一〇〇 壹萬円
 - 中部ガス様
 - 市内神野塚原町 壹萬円
 - 神野臨海様
 - 市内野依町山中一-九-一四 四千元
 - 福祉村病院職員有志
 - さわらび会共同行事実行委員会 参拾九萬九千伍百四拾円
 - 匿名希望氏 壹萬円
 - 匿名希望氏 壹萬円
 - 匿名希望氏 壹萬円
 - その他匿名希望多数の方より 参拾九萬九千伍百四拾円
 - ご寄附頂きました。

計
七拾壹萬四千伍百四拾円
現在までにご寄附いただきました金額は
八億零千貳百九拾七萬
伍千七百零拾六円

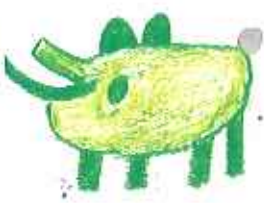


募金方法(インド福祉村)

- 計 貳拾壹萬七千参百七拾貳円
- 静岡県浜北市小松四-九-一 壹千円
 - 鈴木健氏
 - 静岡県浜北市寺島三-七-一 参千円
 - 堀田浩充氏
 - 静岡県引佐郡細江町和-九-一四 壹千円
 - 菊池敏弘氏
 - 静岡県浜松市小池町一-九 壹千円
 - 山崎淳子氏
 - 豊明市新栄町一-二四 伍千円
 - 加藤伸也氏
 - 静岡県浜松市半田山一-三〇-一 伍萬円
 - 浜松医科大学硬式テニス部
- 振込先
郵便振替・郵便振込
口座番号
〇〇八三〇二二六五〇〇八
インド福祉村協会
■連絡先 軽費老人ホーム若葉荘
登四八-一-三三八まで



あかね荘：手塚吉一



▶珠藻荘のクリスマス会に、ジャスコ豊橋南店のサンタさんたちが、洗濯機をプレゼントしてきました



おれコーナー

ありがとうございます

※印は豊橋市志保銀行を通して

- ▼藤ノ花女子高給付学校様 (若葉荘)
- ▼野依小学校四年生様 (若葉荘)
- ▼東京庵飯村店様 (あかね荘)
- ▼杉本屋製菓店様 (あかね荘)
- セリー 水ようかん寄贈※ (あかね荘・明日香)
- ▼善銀サンタ様来荘 (第2さわらび荘)
- お菓子寄贈※ (第2さわらび荘)
- ▼ジャスコ豊橋南店様 (珠藻荘)
- 洗濯機寄贈 (珠藻荘)

2007 年賀



●陶芸：あかね荘陶芸教室共同作品 ●絵画：杉本滋弘

みんなの力でみんなの幸せ

2007年1月1日発行 早蕨 第405号

(昭和82年2月21日第二種郵便物認可)

充実した医療と福祉

- 特別高齢老人ホーム さわらび荘
TEL (0532) 54-3501
- 特別介護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ
TEL (0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘
TEL (0532) 48-1138
- 身体障害者福祉施設 珠藻荘
TEL (0532) 47-1050
- 知的障害者更生施設 あかね荘
TEL (0532) 48-2825
- 福祉村病院
TEL (0532) 46-7511
- 知的障害者授産施設 明日香
TEL (0532) 46-6579
- 障害福祉サービス事業所 しろがね
TEL (0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東真町)
TEL (0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
TEL (0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
TEL (0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
TEL (0532) 46-7501

社会福祉法人 さわらび会
医療 介護

編集責任者：武田和敏 印刷：共和印刷所 定価：100円

表紙作品：藤田寛男 (カサ デ ローザ)

編集後記

明けましておめでとようござい
ます。本年もどうぞよろしくお
願いします。

昨年、介護保険法改正、障
害者自立支援法施行、医療制度改
革など医療・福祉において大きな動
きがありました。また、年末には合計特殊出
生率が、1・26へと大幅に下方修正され、人
口も2055年には8993万人まで減ると
の予想が発表されました。

さらに、人口に占める65歳以上の高齢者の
割合は、05年の20・2%から55年には40・5
%と倍増し5人に2人は高齢者になるという
見通しです。世界でも類を見ないスピードで
少子高齢化が加速する日本。私達の使命は：
私は、今何をなすべきかを見極め自分の役
割を強い信念のもと実行したいと思います。

(武田)